

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

奉仕を通じて平和を  
Peace Through Service



平和そして明るい未来  
Peace, And Bright Future

国際ロータリー会長 田中 作次

2012~2013

富津中央RC会長 高橋 裕之

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

## No.2277 第24回例会 2012. 12. 27 晴

点 鐘 : 高橋裕之 会長

進 行 : 刈込一弥 会報・広報委員長

ソング : 奉仕の理想

お客様 : 第2790地区ガバナー 得居 仁 様

第4分区ガバナー補佐 秋山和彦 様

もに、クラブ協議会にて意見交換等をさせていただくこととなりますので、最後までよろしくお願ひいたします。

また、会員の皆様におかれましては、先週の忘年家族親睦例会に引き続いての重要プログラムです、最後まで緊張感を持ってお過ごし下さい。

### 会長挨拶

高橋裕之 会長



皆様こんにちは。本日はガバナー公式訪問です。得居仁2790地区ガバナー、秋山第4分区ガバナー補佐にはようこそお出で下さいました。会員一同、心より歓迎申し上げます。

例会に先立つ、得居ガバナー、秋山ガバナー補佐と会長幹事ならびに次年度会長幹事の6名の懇談会では、RIそして地区の情報について詳しくお聞きすると共に、地区協議会などの際に拝見した堅い印象と違う、とても暖かく親しみのある得居ガバナーのお人柄に触れさせて戴きました。

得居ガバナーからは、この後卓話を頂戴すると

### 幹事報告

若鍋武良 幹事



皆さん今日は。今日は得居ガバナーをお迎えしての公式訪問です。得居仁ガバナーには遠路お越し頂き有り難う御座います。又、秋山ガバナー補佐も来訪頂き、感謝申し上げます。

例会終了後、クラブ協議会の前に写真撮影を行います。

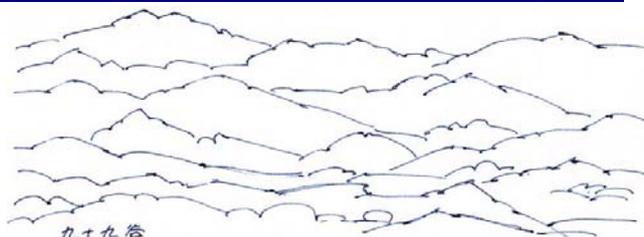
報告事項

配布:「ロータリーの友 1月号」

「国際ロータリー第2790地区

2012-13年度地区大会記念誌」

〒293-0042 富津市小久保2868  
さざ波館 Sazanami-kan  
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,  
Zip code 293-0042  
Tel.0439-65-3373 Fax.0439-65-3304  
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



## 委員会報告

### 親睦旅行俳句三枝一雄選発表

千葉一利 会員



千葉会員が三枝一雄会員の選んだ句を発表したが、夫人方と混作で作者特定不能の為、後日整理の上、紙上で発表することとなった。

### 口財団・米山委員会

高島治雄 米山担当部長



特別寄付目標額にあと一步、乞協力。

### ニコニコBOX

榎本守男 親睦担当部長

\*得居ガバナー、\*秋山ガバナー補佐

ガバナー、ガバナー補佐をお迎えして。

高橋、若鍋、石渡、山田、平川、原田、榎本、志波、千葉、高島、大網、渡辺、小野、\*刈込、白石、須藤

\* >1,000円 合計 27,000円

### 出席報告

原田雅式 出席担当部長

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	20/19	16			84.21%
前回	20/19	19			100%

## 卓話

得居 仁 ガバナー



松戸東ロータリー・クラブ得居仁でございます。国際ロータリー第2790地区ガバナーとして、富津中央ロータリー・クラブに公式訪問ができますことを大変光栄に存じております。

一日1クラブずつ、それを1月中に終わらせるために、12月最後の週のそれも27日という、押し迫った日になってまいまして、皆様が大変お忙しいときの公式訪問となりまして真に申し訳ございません。

先刻行われました会長・幹事懇談会におきまして、富津中央ロータリー・クラブの現状、課題などについて、率直な意見交換をいたしました。

富津中央ロータリー・クラブの日頃の奉仕活動に深甚なる敬意を表する次第であります。どうぞ今後とも、クラブ発展のため、更に一層のご研鑽、ご尽力下さることを期待いたします。

30年ぶり、日本から3人目である、埼玉県八潮ロータリー・クラブ2012-13年度田中作次国際ロータリー会長の今年度のテーマは「奉仕を通じて平和を」であります。

田中会長は、ロータリーは、国や民族間の友情と寛容を推進することで、互いに理解し合う最も伝統的な意味での「平和」の後押しをすることが出来るとして、世界3都市での「ロータリー世界平和フォーラム」の開催を決定されました。2013年5月17、18日両日「平和はあなたから始まる」をサブタイトルとする広島大会が開催されます。

皆様方お1人ずつから、300円の開催費用のご負担をして頂いたのですが、会場が約1000人を限度とすることから、1地区最大30名、うち新世代10名を限度として欲しいとの要望がまいました。公式訪問しておりますと、参加希望ロータリアンが大変多いのですが、殆どの方に参加して頂けないという、

いささか納得のいかないことになっております。

また田中会長は、ロータリアンは、自分よりも他のひとのニーズを重視する、「超我の奉仕」というロータリーの標語は、自分だけではなく、社会全体のためを考えよと教えてくれる言葉であり、「超我の奉仕」を実践することにより、私たちは、「平和」すなわち「心の平安や家族の幸せ、満足感」「人間の基本的なニーズが満たされた安全な状態」を実現することが出来る、とされておられます。

さて、これより私の今年度ロータリーの取り組み方とロータリー観を申し述べたいと存じます。

RI定款と皆様のクラブ定款のそれぞれ第4条に規定されております「綱領」とは、大綱で、つなぎ、まとめられた最も重要なものであることを意味する言葉であり、また「定款」は、国家に譬えれば憲法に匹敵する性格を有する基本的且つ重要なものがあります。以上からも明らかなように、「綱領」は、私たちロータリアンがロータリーの目的、目標とするに留まらず、これを守り通し、守り続けて行かなければならないものだということになります。

「ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し」と宣言しています。「ロータリーの目的は、奉仕という基本理念の上に立って事業が行われるようにすることにある」というのですから、ロータリーの目標は唯一つ、職業奉仕の推進以外にはなく、これに尽きるのであります。

田中会長も、「事業を成功させるには、顧客の満足を追求する以外にないという結論に達しました。顧客に喜んでもらえれば、事業も成長します。そうすれば私自身も幸せになれる。しかし、それは事業が成功しているからだけではなく、人を幸せにしてあげることができたという認識があるからです。」として、折に触れて職業奉仕の大切さを説いておられます。

また、近いところでは、スコットランド出身の2009-10年度国際ロータリージョン・ケニー元会長も、「ロータリーの基盤は職業奉仕であり」、「ロータリアンの責務は、事業と私生活において、高い道徳的水準を持ち続けること」、「ロータリーとは、異業種ながら志を同じくする職業人の集まりで、個々に清純で温かな心で地域社会に奉仕の手を差し伸べること」「ロータリーが職業奉仕を失えば、単なる社会奉

仕団体に成り下がる」と述べておられました。

ご覧になった方も多いと思いますが、人気番組NHK 教育 TV ハーバード白熱教室のマイケル・サンサンデル教授の最近の著書「それをお金で買いますか 資本主義の限界」に、アリストテレスは、「われわれは、正しく行動することによって正しくなる。節度をもって行動することによって節度を身につける。」と、美德は実践を通じて育まれると、教えた。

ルソーも、市民的美德は、活発な市民的行動によって築かれるのであり、食いつぶされるのではない。使わなければ、実質的に失われるのだ。」と言う、とありました。

PETS でもお話ししましたように、ノーベル生理学・医学賞受賞者アレキシス・カレルが著した、世界18カ国で1000万部を突破した超ベストセラー「人間 この未知なるもの」に、次のようにあります。

「筋肉は活動すればするほど発達する。活動すると消耗するところか強化する。器官は使われないと退化する。生理的機能も精神的機能も、活動すれば増進するということは、観察がもたらす基本的な事実である。筋肉や器官と同じように、知能や道徳観念も訓練が不足すると退化する。」

ロータリーが、繰り返し、繰り返し、職業奉仕の理念の追求と実践を説き続けてきたのは、人間が、アレキシス・カレルのいうところの「この未知なる生物」であるからではないでしょうか。

私は、地区協議会でもお話しいたしましたように、2年前の4月、突然、原因不明の急性肝炎と血小板の激減という奇病により、生死の境を彷徨い、臨死体験までしております。

延命措置を取るのかの確認を求められた家族は覚悟を決めたそうではありますが、その一方で順天堂大学御茶ノ水医院の医師と看護師の深夜早朝を問わない昼夜の、全力を尽くしての治療と看護のお蔭により、医学的には奇跡だそうではありますが、死からの生還を果たすことが出来ました。

担当の女性医師は新婚生活を犠牲にして、危機を脱するまでの12日間毎日病院に泊まり込み、危機を脱した後も退院するまでの39日間1日の休みも取らないで治療に当たってくれました。医師達は、原因不明の中での治療法を検討するために徹夜の会議もしてくれました。

看護師さん達は、深夜早朝を問わず、多いときには15分おきに点滴のチェック、交換、血圧・体温測定の見守りに、また私に生きようとする気力を起こさせる為の様々なケアを、施してくれていました。

順天堂大学の医師と看護師の皆さんはロータリアンではありませんが、ロータリーの説いている職業奉仕と同様の行為が奇跡を起こして私を死の淵から助け出してくれたのです。

職業奉仕がロータリーだけのものでないことを知ると同時に、職業奉仕が気高く、崇高なものであることを身をもって知ることが出来ました。

私は、ロータリーは、職業奉仕の推進を目的とする実践的倫理運動であり、職業奉仕を中心とし、そこから、新たに加わった新世代を含む4部門の奉仕の輪が広がり、それを結んだ輪の上に関連した諸活動が円形に広がって回転しているのが基本構造である、と考えています。

ところで、地区は、地区内クラブがロータリーの綱領を推進するのを助けるのを唯一の目的とするものであり、地区委員会は、ガバナーから、当該年度のガバナーが設定する地区目標を実行することを託されているものであります。

このような地区の目的、地区委員会の職責、及びロータリーが単年度制を前提としていることを考慮して、今年度私は、地区の変革を試みました。

第1に、官僚化による先例墨守、前年踏襲のみを理由とする硬直した地区委員会活動になってしまわないように、事前に防止すると同時に、私の設定した目標に向けた活動をして頂くために、殆どの地区委員に交代して頂きました。また、同時に、官僚化することによる組織の自己肥大本能を、事前に防止するために、地区委員を約50名減員いたしました。

第2に、地区青少年交換委員会に事務局が置かれ、任せきりでありました。事務局として良くやって下さっていたようですが、ロータリアン以外に任せきりであるのは、ロータリーの奉仕活動として相応しくない状況というべきでありました。年間85万円ほどの事務局費が支出されておりました。織田ガバナー年度の地区監査委員会から支出が不適切との指摘がありましたが、廃止できないでいたのを、今年度廃止いたしました。

第3に、月信を含むガバナー事務所経費の大幅な削減を目指しました。

地区の収入の50%を超える金額をGE事務所費、G事務所費として使っている事に疑問を感じていたことと、毎年のクラブ運営資金の不足に悩んでいる地区内クラブが決して少なくないことから、のもの。

月信と申しますのは、ガバナーから地区内クラブの会長・幹事に宛てた毎月の書簡であります。これをカラー印刷にする必要は全くありませんから、白黒印刷に変更し、本来の月信とは無関係の記事の掲載を取り止めて、ページ数を削減することによって経費を節約しました。

その一方では、会長・幹事にはオリジナル(原本)の月信を、クラブ会員には参考として COPY と印字された月信をお届けするという、月信の本来の姿に戻しました。

併せて、事務局人件費、会議費の削減を図りました。経費削減の結果として、地区委員会主催セミナー登録料を廃止することができました。既に3回行われました地区委員会主催セミナーと、来年1月の地区クラブ奉仕委員会、2月の地区R財団委員会主催の第2回セミナーを併せますと凡そ320万円位かかりますが、これをクラブに負担して頂けません。

経費の、節約に節約を重ねての儉約の成果を、セミナー登録料の廃止以外にも地区内ロータリアンに実際に還元するために、下期地区関係負担金合計12,640円を5,000円減額し、7,640円とすることにいたしました。

富津中央ロータリー・クラブは、20名分100,000円の負担減になります。どうか、有効にお使い下さいますようお願いいたします。

第4に、毎年かけ声だけに終わっておりました地区IT化を実現いたしました。富津中央 RC のように、事務局員を置いておられるクラブには実感がないと思いますが、クラブと地区(ガバナー事務所)との連絡が大変簡単にできるようになっております。事務局員の仕事量が大幅に減ったはずですが。

ガバナー事務所が関与出来なかった地区HPを、今年度はガバナー事務所の完全な管理下においております。

今年度地区HPには、地区内クラブ活動状況掲

載ウィンドウがあり、既に何クラブかのクラブ奉仕活動が掲載されています。富津中央ロータリー・クラブにおかれましては、会報に掲載されております忘年家族例会の再婚式の写真に記事を付けての掲載を是非お願い致したいと存じます。原稿をガバナー事務所にお送り下さいますようお願い致します。

地区からのお知らせ、連絡をR財団ニュース、米山だより、ロータリー・レートなどと一緒にHPにも掲載しております。会長・幹事は最低でも週に1回は地区HPを閲覧して最新の情報に接して頂きたい、と存じます。

他方、地区内クラブに対しましては、「クラブ活動計画書」掲載のご挨拶「利己と利他との調和」にまとめましたように、9項目の要望をいたしております。2項において、職業奉仕理念の理解を深め、職業奉仕の実践を極めていくことを目指して、クラブに研修委員会を設け、或は研修を担当する委員会を定めて、クラブ会員の研修を重ねること。その効果により、高潔であり、品格・徳性を備え、地域社会で尊敬されるロータリアンを数多く生み出し、「クラブのサポートと強化」並びに「ロータリーの公共イメージと認知度の向上」を果たすこと。を要望いたしております。

秋山ガバナー補佐のご報告によりますと、富津中央ロータリー・クラブは、奉仕プロジェクト委員会が研修を担当するとのことであり、また、クラブフォーラムによる研修を予定しておられるようであります。

会員研修、特に職業奉仕に重点をおいての会員研修を行うことにより、会員は、ロータリーを理解する喜びを知り、また、ロータリーの真の魅力を体得することにより、ロータリーを通じて、更に自らの向上を図り続けるようになるのではないのでしょうか。

先に行われた分区単位での職業奉仕に関する双方向意見交換を、クラブ単位で再度行い、或は先ほど会長にお渡しした職業奉仕の基本理念とシェルドンの唱えた“Service”とは何か、を簡単に説明したコピーを利用した職業奉仕理論を学ぶ事なども、会員研修の方策になるものと存じます。

私は、この会員研修の徹底こそが退会防止に直結する早道であり、かつまた、会員増強にも直接結び付くものである、と確信いたしております。

要望事項3で、新世代奉仕活動について、社会

奉仕委員会とのクロス・プロモーションによる奉仕活動を実施し、「人道的奉仕の重点化と増加」に資すること、をお願いいたしました。

我が国の新世代は、市場原理主義、グローバリズム、ボーダーレスなどの影響により、将来に希望が持てない状況にあるのではないのでしょうか。いささか、虚無的にすらなっているのではないのでしょうか。

私たちは、将来のロータリアンとなり得る人材としての新世代を育成すべきであります。また、同時に、私たちロータリアンが新世代の手本、見本となるよう日々努めていくべきであります。

新世代が健全に成長する事は、地域社会、我が国、世界、そしてロータリーの将来にも明るい希望の火が灯ることになるのだ、と私は信じております。

また、7項において、クラブ純増1名の実現に力を尽くすようお願いいたしております。

富津中央ロータリー・クラブ活動計画書11頁会員増強委員会は、目標である10%以上の増員である2名の増強に成功しておられますが、直前に1名退会されましたことにより、会員数20名であります。会員数が依然としては十分でないことは、皆様方良くご承知のところでありましょう。

今年度後半に向かって、増強への力強い潮目を絶やすことなく、これからも増強への更なるご尽力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

一般地区内各クラブに、クラブ会員研修の教材として頂きたく、冊子「忘筌」を3冊ずつお送りいたしました。

決議23-34制定に至る歴史と決議の意味につきまして、是非この「忘筌」からお読み取りください。ところで、決議23-34とありますように、決議された1923年時点において、4大奉仕(現5大奉仕)に分化する奉仕概念は未だ成立していませんでしたし(1927年に成立)、また3大セミナー配布冊子では省略してしまいました決議前文において、「ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、及び社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである」としていることからしても、決議23-34は現在の「社会奉仕」だけに限定して適用されるべきものではなく、「(広く全ての)奉仕の実践に関する決議」であるというべきであります。

決議23-34は、「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は、奉仕—『超我の奉仕』の哲学であり、これは『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』という実践的な倫理原則に基づくものである。」と宣言しています。

無限に増殖していく人間の本能である欲望に手綱をつけて、「欲望を自己制御」することが、「利己と利他との調和」を図るロータリーの「超我の奉仕」の「人生哲学」、即ち心構えであり、「利己と利他との調和」こそが、人と人との間柄、職業人・実業人とその相手方との関係を律する実践的倫理基準、即ち行動規範の偉大な原理であります。

私たちロータリアンは、例会において、親睦を通じて、心を磨き、自己研鑽に励みます。また道徳心を高揚させて、自らの徳性と品格を高め、更に自己研鑽のエネルギーを奉仕の心として、それぞれがそれぞれの職業の質、職業倫理の向上を踏みます。ロータリーの実践的倫理基準「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。One profits most who serves best.」に依拠して、「利己と利他との調和」という最高善を求め続けること、それがロータリーなのだ、私は考えています。

終りに当り、富津中央ロータリー・クラブのますますのご発展と、会員皆様のご健勝を祈念いたしまして、公式訪問の卓話といたします。

以上で例会を終了、別室で記念写真撮影後、13時40分よりクラブ協議会が開催された。



アジェンダ

1. 開会の言葉 高橋会長
2. 得居仁ガバナー挨拶
3. クラブ運営方針 高橋会長
4. 委員会報告(各10分以内)  
報告終了毎にガバナー意見・質疑応答
  - ①会員増強委員会 山田委員長
  - ②会報・広報委員会 刈込委員長
  - 休憩10分 —
  - ③管理運営委員会 須藤委員長
  - ④職業奉仕担当 白石担当部長
  - ⑤ロ財団・米山委員会 小野委員長
6. 講評 得居仁ガバナー

